

5月上中旬は平均気温が高めに経過したため、平年よりやや生育が進んでいます。苗には、育苗様式毎に移植の適齢期があります。活着や初期生育を遅らせる「老化苗」や「徒長苗」にならないよう最後の仕上げ管理を行いましょう。

## 1 3.0葉期～移植までの育苗管理ポイント

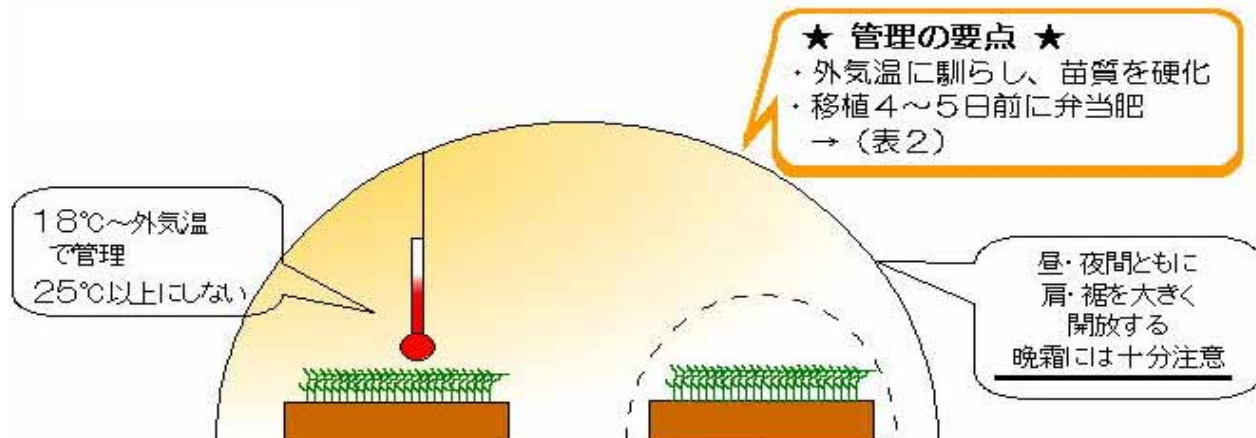


表 1 育苗様式別の育苗日数・移植時葉令・草丈の目安

育苗様式	育苗日数	移植時葉令	草丈
中苗マット・型枠	35日程度	3.1葉以上	10～12 cm
成苗ポット	35～40日	みのるポット 4.0葉以上	10～13 cm

## 2 活着促進のための「弁当肥」を忘れずに

移植の4～5日前に施用し、軽くかん水します。

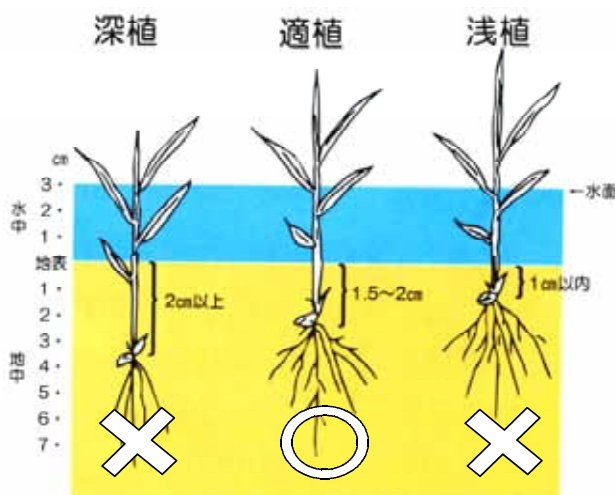
表 2 弁当肥の育苗様式別施用量 (100枚当たり施用例)

	成苗ポット	中苗マット・型枠
NP化成57号	350 g (3.5 g / 箱)	700 g (7.0 g / 箱)
硫安	250 g (2.5 g / 箱)	500 g (5.0 g / 箱)

## 3 適期移植・適期植付深で苗の活着を促そう

移植適期の苗を植付深1.5～2cmで移植しましょう。

移植した苗は断根で吸水が低下し、葉面から水分が蒸散するため、低温や風の影響を受けて植え傷みを生じやすくなります。苗の活着は、気温よりも水温に強く影響されるので、低温・強風時は、稲の生育に合わせて深水にして、稲を保護します。



**ストップ! 農作業事故 忙しくても農作業はゆとりをもって**